



発行：さよなら原発ひたちなか市実行委員会

連絡先：茨城県ひたちなか市馬渡 2824-63 佐藤英一 (TEL:029-273-4775)

東海第二原発 熊本地震並みの揺れにおそわれたら・・・

表 地震の揺れの比較

震度	熊本・大分地震 (4/14~5/3)	東日本大震災 ひたちなか (3/11~4/10)
7	2回	0回
6強 <small>耐震性の低い木造建築の多くが傾いたり倒れたりする。</small>	2回	0回
6弱 	3回	1回
5強 <small>固定していない家具が倒れることがある。</small>	4回	0回
5弱 <small>壁にある自販機、本が落ちることがある。</small>	7回	2回
1~7 合計	1183回	583回

(水戸気象台調べ)

熊本・大分地震 (M7.3) で、東日本大震災当時の恐怖がよみがえりました。

5年前、東海第二原発は、津波から間一髪で逃れましたが、実はあの大地震の揺れで、東海第二は原子炉の再循環ポンプのモーターや原子炉内の核分裂を抑える制御棒など 155 か所を超える損傷があり、敷地内では液状化や地盤沈下も起きていました。

しかし、5年前の体験は、熊本・大分地震と比べると震度でも、強い余震の回数でも、ささやかなものです (左表で比べてください)。もし熊本並みの激震におそわれたら、東海第二原発はどうなってしまうのでしょうか？

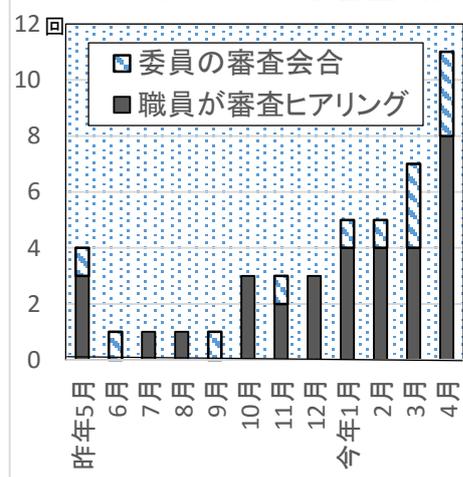
朝日新聞は (2013.12.21 付) 「原子力施設で 30 年以内に震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率」は東海第二原発が 71.9% で最も高いと報じています。

東大・地震研究所の古村孝志教授は、科学は自然界の複雑さをなお解明しきっていない面があることを念頭におき、(何ごとにも) 事前の準備をしておくべきと警告しています。しかし、安倍政権や電力会社は馬耳東風で、推進一辺倒です。

東海第二原発の再稼働(と運転延長)に向けた原子力規制委員会の審査は、東海第二には「スジの悪いところが無い」(更田豊志委員長代理)として開催のペースを上げています。(右図)

最も大切な「事前の準備」は、危険の可能性を除去すること、再稼働をしないことです。

図 東海第二の月別審査回数



(原子力規制委員会HPにより作成)

古い「東海第二原発」は、廃炉が一番！

子どもたちに、安全な未来を

◇原発廃炉へ、廃炉技術を磨くことこそ重要です。

◇原発でできた放射能は、消滅する技術がなく、何万年も脅威です。

ひたちなか市での

東海第二原発への 声

声 声

皆さんの声・つばき
お寄せ下さい。
TEL/FAX: 029-273-4775

問 原発はない方が良いが、発電コストの安い原発をなくしては、日本の経済が心配だ。
(70代男性)

答 福島原発事故後数年は、原発がないと電力は不足すると一方的に宣伝されたが、実際はそうなりませんでした。

発電コストについては、立命館大の大島堅一教授が2010年まで40年間の有価証券報告書を分析し、国が電気料金の形で税金を取りたて立地自治体交付金や核燃料再処理経費等として援助している分を含めれば、原発は国民にとって割高だと発表しています。(下表)

発電コスト	政策支援を加えた本当のコスト	電力会社のコスト
原子力	10.25 円	8.53 円
火力	9.91	9.87
一般水力	3.91	3.86

日本経済では、原発をやめても国内総生産(GDP)への影響は年率0.1%程度だと国の審議会に報告されていると同教授が紹介しています。影響は軽微ですね。

小泉元首相は、原発コストが安いとする当時の報告書を受け取った本人ですが、今や原発なくす運動の先頭に立っています。

70才前後男性 (平磯町)

「原発は必要と思うが、事故のことを考えると、肝心なことを解決できてない技術だから、再稼働はしない方が良い。放射能で汚染してはモトモコモナイからね。」

60代女性 (平磯町)

私：平磯中学のグラウンド南門向いの山、放射能高いですよ、小さなお子さんが居たら近付かない様に教えてやって下さい。

女性：あれ、子供と良く散歩に行くのよ、あそこは。こうやって教えてもらえると、ありがたいわ。

私：お宅の庭でも、今、1時間あたり0.1マイクロぐらい、事故前の2～5倍はまだあるんだけど、あそこは、ここの7倍以上あるから、少なくとも後3年は本当に注意です。

女性：まだ高いんだ。注意するわ。ありがとう。

先月、第43号でのカンパの呼びかけに、皆さんより、合計1万円のカンパがありました。有難うございます。今後とも、東海第二原発廃炉に向けて、力を尽くして参ります。

放射線測定ボランティア・正治さんが、測ってみると？



2016/5/12 (木) 市内・ひたち海浜公園内。常陸那珂港が見下ろせる「グラスハウス」南東方向、「香りの谷」入口遊歩道脇の茂みにある滝から東に5～6mの松の下、幹から1m 離れ高さ1mの所で測定。

海浜公園の人が集まる所や通路は除染されていて、毎時0.15～0.2マイクロシーベルトぐらいです。しかし、遊歩道脇の茂みではこのように線量の高いところがあり、除染の難しさが分かります。また、通路でも、「グラスハウス」脇の小川橋東端遊歩道中央の、枝振りが良い松の枝葉の下では毎時0.25マイクロシーベルトを超えていました。

- 1) 単位は $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト毎時)。
* 「2011年の原発事故」前は $0.05\sim 0.02 \mu\text{Sv/h}$ 。
- 2) 測定器は HORIBA PA1000 Radi ; 測定者は正治。

セシウムからの放射線は、2012年4月から3年後で約半分に減りました。でも今後は減速し、2019年辺りからは半減するのに約30年かかると推定されます。樹木の根元に濃縮されがちなので要注意です。